

## 4 多摩市の図書館のあゆみ

### (1) 多摩市の図書館

「多摩市立図書館」とは、多摩市の図書館（本館、分館、1分室）の総称であるとともに、多摩センター駅南、旧西落合中学校跡地にある「本館」の正式名称でもあります。本館は他の図書館を支える中心館の役目を担っています。

分館<sup>1</sup>は、その役割により地域館と拠点館<sup>2</sup>に分けています。地域館とは、床面積約 500 m<sup>2</sup>、蔵書 5 万冊規模で、各地域における日常的な図書館奉仕を行う東寺方、豊ヶ丘、聖ヶ丘、唐木田です。拠点館とは、駅前<sup>3</sup>にあり床面積約 1,000 m<sup>2</sup>、蔵書 10 万冊規模で広域的な図書館奉仕を行う関戸、永山です。分室は、市役所第二庁舎内にある行政資料室<sup>3</sup>です。

総称	館の名称	区分 (条例)	役割（管理運営に関する規則）	
			名称	役割
多摩市立図書館	多摩市立図書館	本館	中心館	図書館全体の連絡調整及び情報提供
	多摩市立東寺方図書館	分館	地域館	各地域における日常的な図書館奉仕
	多摩市立豊ヶ丘図書館			
	多摩市立聖ヶ丘図書館			
	多摩市立唐木田図書館			
	多摩市立関戸図書館			
	多摩市立永山図書館	拠点館	広域的な図書館奉仕	
多摩市立図書館行政資料室	分室	分室	図書館奉仕及び本館の業務の一部	

### (2) 図書館のあゆみ 一つの建物と自動車図書館から始まり、地域図書館の整備に重点

#### 多摩市立図書館の開館（昭和 48 年 8 月）

多摩ニュータウン開発によって人口が急増した多摩市では、新旧住民の心のよりどころとなる施設を求める声が強まりました。市では、社会教育施設整備補助金を受け、公民館と図書館の複合施設を市役所の隣に建設しました。これが現在の**本館**です（後に多摩センター駅南に移転）。それまで市に図書館はなく、市民は東京都立立川図書館（後に都立八王子図書館が運行）の移動図書館むらさき号のほか、市民活動の一つとして営まれていた家庭文庫や地域文庫を利用していました。

図書館ができたとはいえ、公共交通網も十分ではなかった当時、普段の生活の中で図書館を利用できるのは、建物周辺の住民に限られがちです。図書館では、多摩市のどこに住んでいても図書館を利用できるようにする手立てとして、自動車図書館やまばと号を導入し、全域への

<sup>1</sup> **分館** 一般に言う「地域図書館」のこと。多摩市における役割の名称としての「地域館」「拠点館」との混乱を避けるため、あえてこの名称を用いている。

<sup>2</sup> **拠点館** 多摩市立図書館の造語。通常の地域館より規模が大きく、駅前の拠点地域にあり、より広い地域の住民の利用が見込まれると位置付けた図書館のこと。

<sup>3</sup> **行政資料室** 市長部局で所管していた「行政資料室」と同じ名称を用いたため混同されることが多いが、機能は異なる。主な経緯は以下のとおり：平成 6 年 行政資料の市政への市民参加促進を目的に、行政資料の収集・保管・市民提供を行う行政資料室を設置。当初の所掌は総務部総務課。その後、行政資料室で情報公開請求・個人情報開示を行う関係で、文書法制課情報公開担当に移る。平成 15 年 行政資料の収集・保存・提供業務を図書館に移行し、行政資料室は発展的に解消。資料は本館内の「行政・郷土資料コーナー」に吸収。平成 20 年 本館の移転に伴い、本館の機能の一部を「行政資料室」の通称で第 2 庁舎に残す。平成 23 年 施設として正式に位置付ける。

サービス<sup>4</sup>と貸出サービスに力を入れました。

また、同じ目的で、地域文庫・家庭文庫や児童館、学童クラブなどの施設への団体貸出<sup>5</sup>に力を入れました。このように貸出に力を入れ、子どもへのサービスを大切にしながら、潜在的な図書館利用を掘り起こしながら、市内全域に図書館網<sup>6</sup>を作ることを目指しました。

### 分館の整備（昭和54年10月～）

多摩市が住宅都市として発展、成長する中で、それぞれの地域への公共施設の整備が進められ、図書館も順次整備されていきました。

昭和54年に、多摩ニュータウン第一次入居が行われた諏訪・永山地区に、**諏訪図書館**が開館しました。地区市民ホール、老人福祉館との複合施設です。

昭和56年に、市域の北、既存地区である東寺方に、**東寺方図書館**が開館しました。地区市民ホール、老人福祉館、児童館（学童クラブ併設）との複合施設です。

昭和57年に、諏訪・永山に続き入居が行われたニュータウン地区である貝取・豊ヶ丘地区に**豊ヶ丘図書館**が開館しました。地区市民ホール、老人福祉館、児童館（学童クラブ併設）との複合施設です。

それぞれの図書館では、地域住民の身近な図書館として貸出に力を入れました。主な利用層はそれぞれの地域の住民です。おはなし会など子どもへのサービスも徐々に発展させました。

### 駅前拠点型の図書館への新たな取り組み（昭和59年8月）

図書館サービスが市民の間に広がる中で、新たな市民要望に応え、未利用層に利用を広げることに取り組みました。

昭和59年に聖蹟桜ヶ丘駅前に開館した**関戸図書館**は、駅前という立地の利点を生かし、夜間開館、閲覧室の整備、参考図書<sup>7</sup>の充実、集会室の併設など、今までの分館にはなかった機能を備えて開館しました。

### コミュニティセンターに併設する図書館の建設（平成7年10月）

第三次総合計画（平成3年）で、市はコミュニティ・エリアごとにコミュニティセンターを整備し、市民が主体的にまちづくりに取り組むための拠点施設と位置づけることにしました。

平成7年、聖ヶ丘地区に開館した**聖ヶ丘図書館**は、学童クラブとともに聖ヶ丘地区コミュニティセンター（ひじり館）に併設して建てられた地域館です。コミュニティセンターの活動と連携・協力しながら、地域に視点を合わせたサービスの提供を行っています。

なお、聖ヶ丘図書館では施設設計上、滞在型の要素を意識的に取り入れました。また、録音室、対面朗読室を多摩市の図書館では初めて併設しました。

<sup>4</sup> **全域サービス** 多摩市の全地域の住民が図書館を利用できるようにすること。そのためには、“計画的に多くのサービスポイントを設け、住民が身近なところで図書館を自由に利用できるようにする必要がある” 『最新図書館用語大辞典』（柏書房 2004）より

<sup>5</sup> **団体貸出** 図書館が地域のグループや団体、施設などにまとめて貸出するサービス。多摩市では特に子どもの読書環境を整えることを目的に、団体貸出用の児童書を用意し力を入れてきた。現在も児童館や学童クラブ、保育園などの子どもの施設に利用されている。大人の本も、トムハウスなどの施設に団体貸出している。

<sup>6</sup> **図書館網** 複数の図書館が連携して行うサービス形態。一つの図書館の蔵書は限られているが、複数の図書館間の連携、協力により多くの資料を提供できる。多摩市では開館当初から全館を一つの図書館（図書館網）として運営している。利用者カードは共通で、「市内のどこで借りてもどこで返してもよい」は、今では多くの自治体で当たり前になったが、当時は新しいしくみだった。

<sup>7</sup> **参考図書** 調べものに使う辞書、辞典類、統計関係の資料、年鑑・年報などのこと。レファレンス・ブックともいう。個人では買いにくい、こうした資料群を揃えておくことは図書館の大切な役割。

### 永山図書館の開館（平成9年4月）

永山駅前地区の再開発に関連し、公共施設の整備について検討が進められる中で、図書館施設の充実と配置について見直しを行った結果、永山駅前に図書館を設置することになりました。

平成9年に永山駅前に開館した永山図書館は、永山駅前複合施設（ベルブ永山）内にあり、公民館、消費生活センターに併設しています。関戸図書館同様に駅前の拠点型図書館として位置づけ、夜間開館、閲覧席の充実、参考図書の充実などの機能を備えて開館しました。

至近に位置していた諏訪図書館は、永山図書館の開館に伴い閉館しました。現在は、集会室として利用されています。

### 多摩市立図書館（本館）の移転（平成20年3月）

昭和48年8月に市役所の隣に開館した多摩市立図書館（本館）は、耐震上の問題があるため、旧西落合中学校跡地施設（多摩市落合2丁目29）に移転しました。なお、この移転については、恒久的なものではなく暫定期間10年程度とされています。

### 唐木田図書館の開館（平成23年4月）

唐木田図書館は、児童館とともにコミュニティーセンター（からきだ菖蒲館）に併設して建てられました。コミュニティーセンターとの併設は聖ヶ丘図書館に続き2館目の地域館です。

## **(3) 書庫及び団体貸出図書室について 長年、市立学校の空き教室を書庫として活用**

蔵書の蓄積を生かし、奥行きを持たせるために書庫は必要不可欠な施設です。図書館は開館当初から独立した書庫を持たず、各図書館の面積に限りがある中でそれぞれの事務室などに書庫スペースを確保してきましたが、年を重ねるごとに増え続ける全集、著作集、年次の古くなった参考図書、利用頻度が少なくなった資料などを保存する書庫の確保は、図書館の恒常的な課題でした。

また同様に、学校や児童館などへの団体貸出用児童書の保管スペースの確保も課題としてきました。長年、これらの書庫については市立学校の余裕教室や跡地施設内に分散し確保してきましたが、平成20年3月、多摩市立図書館（本館）の移転と同時に、それまで2つの学校跡地施設に確保していた書庫と団体貸出図書室を本館に統合することができました。本館内に書庫を確保したことにより蔵書の提供がよりスムーズに行えるようになりました。

## **(4) 開館日・開館時間について**

昭和48年の開館当初から、土・日に開館するなど、多くの市民が利用しやすいように設定してきました。開館当初は、土日の連続開館後の月曜休館を休館日（館内整理日）としてきましたが、関戸図書館の開館を機に、木曜日を休館日に変更しました。関戸図書館がある商業施設の休館日（当時）に合わせ、分かりやすさや全館一体運営を基本としている都合に合わせたものです。

開館当初は、職員数が限られた中で効果をあげるため、主婦や子どもを重点的な利用層と設定し、その日常生活時間に合わせた開館時間帯を設定してきました。

昭和61年8月、聖蹟桜ヶ丘駅前の関戸図書館では、市外に通勤・通学する人を含めた新しい利用層に合わせ、平日の夜間開館（午後7時15分まで）を始めました。

平成9年、永山図書館が開館し、夜間開館（午後7時半までに拡充）を市内2つの館で行うことになりました。

平成12年、豊ヶ丘図書館、聖ヶ丘図書館の2館では、地域の要望を受けて開館時間を午後6時まで広げました。

平成 15 年、利用が多い駅前の 2 つの図書館（関戸図書館、永山図書館）で祝日開館を開始しました。

平成 21 年、開館時間を広げ、より便利に、使いやすくという市民要望に応えるため、本館、永山図書館の 2 館で、開館時間を 30 分早め、9 時 30 分開館とし、本館の休館日は、毎週木曜日から第一木曜日のための休館へと変更しました。平成 23 年、唐木田図書館の開館を機に、唐木田図書館の休館日を月曜日にすることで木曜日が常に開館となりました。

これにより、多摩市立図書館全体としては、年末年始を除き、通年開館が実現しました。なお、行政資料室は市役所の開庁時間に同じく、月曜から金曜まで開いています。

休館日（館内整理日）は、蔵書の維持・管理やサービスを総合的に維持するための体制を確保するために、開館当初から毎週 1 回設けているものです。館内整理日には、各棚を集中的に整理・点検し、入替えや廃棄を行うほか、本館で新たに購入する本を選ぶための選書会議を開くなど、図書館の要である蔵書・資料に関わる業務を中心に行っています。その他、展示や行事、各業務についての各館または全館的な企画・調整会議、職員研修など、サービスの充実に向けた様々な取り組みを行っています。

※年毎の個別の事項は「(5)多摩市立図書館年表」をご覧ください。

(5) 多摩市立図書館年表

年	できごと	図書館主催講座・行事
昭和28年 (1953)	都立立川図書館の自動車図書館「むらさき号」が多摩村役場前で巡回を開始 ※昭和32年に駐車地が関戸に移る	
昭和33年 (1958)	都立立川図書館の自動車図書館「むらさき号」運行打ち切り 都立八王子図書館の自動車図書館「むらさき号」が巡回開始 ※駐車地は、昭和38年に5か所、45年に12か所と増加	
昭和46年 (1971)	3月 多摩市総合計画基本構想(第1次)に図書館建設が盛り込まれる	
昭和47年 (1972)	5月 多摩市立図書館、着工	
昭和48年 (1973)	6月 「多摩市立公民館及び多摩市立図書館に関する条例」施行 8月 22日 多摩市立図書館、開館(児童室のみ) 9月 2日 多摩市立図書館、一般の開館 都立八王子図書館の自動車図書館「むらさき号」運行終了(終了時の駐車地は13か所)	
昭和49年 (1974)	3月 図書館報「やまぼと通信」第1号発行 22日 自動車図書館「やまぼと号」運行開始(週3日、20か所) 6月 最初の蔵書点検を行う	絵本講座 全5回(小河内芳子氏/代田昇氏/福島礼子氏/吉村証子氏/鳥越信氏)
昭和50年 (1975)	2月 大人のための児童書新着書コーナーを設置 10月 お店文庫(店舗への団体貸出)を開始	
昭和51年 (1976)	8月 ～9月 貸出方式変更のため臨時休館	
昭和52年 (1977)	6月 目録のコンピュータ化 8月 関戸こども分館、開館	「こどもと本と図書館と」(小川俊彦氏)
昭和53年 (1978)	11月 多摩市立図書館改修工事(2階部分、1室増床)	「絵本作家を囲んで」全4回(にしまさかやこ氏/中谷千代子氏/大川悦生氏/わかやまけん氏)
昭和54年 (1979)	6月 児童書のストックセンター開設 10月 1日 諏訪図書館、開館	「手袋人形講座」(山内薫氏)
昭和55年 (1980)	国際児童年に際し、海外文通事業開始 全国の電話帳の収集開始 10月 おはなしきゃらばん「テアトルラット国際共同講演」開催(共催)	「絵本講座」(もりひさし氏)
昭和56年 (1981)	6月 9日 東寺方図書館、開館 11月 視覚障がい者向けの録音図書の貸出開始 多摩市文庫連絡協議会、発足	「絵本のよみきかせ」全6回(市川早苗氏) 「郷土資料講座」全2回(比留間一郎氏) 「朗読講習会」全10回(根岸幸子氏)
昭和57年 (1982)	2月 民話絵本『おしゃもじさま』(多摩市立図書館文 遠藤タカ子画 横倉鋭之助お話)出版 5月 29日 豊ヶ丘図書館、開館 6月 ～12月 「子どもの本の学校」第1回東京多摩校 全12回を多摩市文庫連絡協議会とともに後援	「絵本のよみきかせ」全8回(市川早苗氏) 第2期「朗読講習会」全5回(根岸幸子氏) 「朗読講習会(中級)」全10回(根岸幸子氏) 「絵本をたのしもう」全10回(波木井やよい氏)
昭和58年 (1983)	4月 多摩市立図書館が週6日、諏訪・豊ヶ丘図書館が週5日開館となる 東寺方図書館、開館日を変更 6月 ～12月 第2回「子どもの本の学校」東京多摩校 全12回(後援) 9月 図書館専用連絡車を購入 10月 総合体育館への団体貸出開始	「乳幼児の絵本について」全2回(図書館職員) 第2回「朗読講習会(初級)」全15回(根岸幸子氏) 本館開館10周年記念講演会(前川恒雄氏、竹内哲氏) 「絵本と読み聞かせ」全10回(波木井やよい氏)
昭和59年 (1984)	3月 やまぼと号2号車を購入、運行開始 6月 八ヶ岳少年自然の家への団体貸出開始 7月 関戸こども分館、閉館 8月 1日 関戸図書館、開館。平日19時15分までの夜間開館を実施 図書館第Ⅰ期コンピュータシステム運用開始 各図書館のオンラインシステム導入	第2回「朗読講習会(中級)」全10回(根岸幸子氏)

年	できごと	図書館主催講座・行事
昭和60年 (1985)	4月 全館の休館日が月曜日から木曜日となる	「絵本をこどもたちに」全10回(波木井やよい氏) 第3回「朗読講習会(初級)」全15回(根岸幸子氏)
昭和61年 (1986)	3月 諏訪図書館内に団体貸出用書庫(ストックセンター)完成 4月 日曜日の開館時間を13時30分から10時に変更 6月 視覚障がい者への対面朗読サービス開始 7月 ブックリスト「こどものための基本図書－絵本編」発行 10月 障がい者への本の宅配サービス開始 11月 関戸図書館にブックディテクションシステムを設置	「読みきかせ講座－絵本から読み物へ」全10回(波木井やよい氏) 第3回「朗読講習会(中級)」全10回(根岸幸子氏)
昭和62年 (1987)	4月 小学2年生を対象とした学校訪問開始 7月 ブックリスト「乳幼児のための絵本リスト」発行	「子どもの本講座－絵本から読み物へ」全10回(波木井やよい氏) 「赤ちゃんから絵本を」全5回(波木井やよい氏) 第4回「朗読講習会(初級)」全15回(根岸幸子氏)
昭和63年 (1988)	3月 健康センターへの団体貸出開始 4月 図書館全館でコピーサービスを開始 郵政省から盲人録音物等発受施設の認可を得る 6月 「おはなしよんで」発行 8月 ブックリスト「多摩市立図書館基本図書リスト－やさしいよみもの編」発行 8月～10月 多摩市立図書館の改修 10月 「調布玉川惣画図復刻版」の刊行(開館15周年記念事業) 11月 図書館15周年を記念し、第1回文庫展開催(共催) 12月 CD-ROM(新聞記事データベース)の閲覧を開始	「赤ちゃんに絵本を」全5回(波木井やよい氏) 第4回「朗読講習会(中級)」全10回(根岸幸子氏) 「赤ちゃんから絵本を」全5回(波木井やよい氏)
平成元年 (1989)	1月 絵本袋を配布(開館15周年を記念し、東京多摩ロータリークラブより寄贈) 4月 土曜日の開館時間を「午後」から「午前10時から」に変更 6月 ブックリスト「幼児・小・中学生のための性教育の本」発行 7月 視覚障がい者向けに「声のやまばと通信」の作成開始 8月 国立国会図書館蔵書目録J-BISC(CD-ROM版)導入 11月 第2回文庫展開催	「子どもたちに集団読書をしている方々への技術講座」全5回(波木井やよい氏) 「源氏物語」本館開館15周年記念講演会(ルネ・シフェール氏) 第5回「朗読講習会(初級)」全14回(根岸幸子氏) 「赤ちゃんから絵本を」全5回(波木井やよい氏)
平成2年 (1990)	4月 グリーンライブセンターへの団体貸出開始 9月 多摩中学校の余裕教室に一般書用閉架書庫を設置 11月 第3回文庫展開催 12月 「(仮称)多摩市立中央図書館基礎調査報告書」作成	「子どもたちに集団読書をしている方々への技術講座(応用編)」全5回(波木井やよい氏) 第5回「朗読講習会(中級)」全10回(田中共子氏) 「あかちゃん えほん おかあさん」全5回(波木井やよい氏)
平成3年 (1991)	3月 22日 図書館第Ⅱ期コンピュータシステム運用開始 オンライン・リアルタイム処理の実現 4月 3歳児を対象とした保育園訪問開始 10月 開館時間の変更 全館の平日の開館時間が10時～17時となる 市政20周年記念事業として、市内の小学生に図書館袋を配布	「子どもたちに読書の楽しさを！」全5回(波木井やよい氏) 第6回「朗読講習会(初級)」全13回(田中共子氏/出木場茂樹氏) 「あかちゃん・えほん・おかあさん」全5回(波木井やよい氏) 「多摩こどもの本歴史講座」全5回(アン・ヘリング氏)
平成4年 (1992)	1月 多摩センター駅出張所にブックポストを設置 2月 第4回文庫展開催(以降毎年2月に開催) 3月 CDの貸出を開始 4月 多摩市図書館協議会設置 都立図書館蔵書目録METLICS(CD-ROM版)の導入 聴覚障がい者のファクシミリでのリクエスト受付開始 冊子「あかちゃんから絵本を」を母子手帳交付時に配布	第6回「朗読講習会(中級)」全10回(田中共子氏) 「赤ちゃんから絵本を」全5回(波木井やよい氏)
平成5年 (1993)	6月 雑誌のリサイクル(廃棄雑誌の無料配布)開始 7月 西永山中学校の余裕教室に一般書用閉架書庫を設置	「教育にロマンを！ブックトークのすすめ」全2回(山花郁子氏) 「こどもの本歴史講座PART2」全3回(アン・ヘリング氏) 「赤ちゃんから絵本を」全5回(しみずみちを氏)

年	できごと	図書館主催講座・行事
平成6年 (1994)	3月 マンガ資料の収集開始 9月 特殊学級訪問開始	「性と出会いと自立—ブックトークのすすめPART2」全2回(山花郁子氏) 「子どもに本のよこびを—親と子の読書を考える」全3回(アン・ヘリング氏) 「子どもと本との出会い」全3回(山花郁子氏) 「幼児と絵本」全5回(しみずみちを氏) 「お父さん絵本読んで！お父さんの味を生かす読みきかせ」(しみずみちを氏)
平成7年 (1995)	4月 図書のリサイクル(廃棄資料の無料配布)開始 10月 1日 聖ヶ丘図書館開館 やまばと号の駐車地を変更 休館日であった毎月1日を開館日とする 嘱託職員制度の導入	「製本講習会」(岩崎博氏) 第7回「朗読講習会(初級)」全14回(田中共子氏/出木場茂樹氏) 「製本講座」全2回(岩崎博氏) 「おもしろい本教えます」聖ヶ丘図書館開館記念講座(赤木かん子氏) 「幼児と絵本」全5回(清水道尾氏)
平成8年 (1996)	4月 やまばと号3号車を購入、運行開始 12月 27日 諏訪図書館の業務終了	「絵本の主人公の手作り講座」(高田千鶴子氏) 第7回「朗読講習会(中級)」(田中共子氏) 「製本講習会」(岩崎博氏) 「おかあさん絵本よんで！」全5回(波木井やよい氏) 「ぐりとぐらを作ろう！」絵本の主人公の手作り講座 全2回(高田千鶴子氏)
平成9年 (1997)	3月 26日 図書館第Ⅲ期コンピュータシステム運用開始 各館に蔵書検索・予約可能な利用者端末機を設置 30・31日 永山図書館、特別開館 視覚障がい者サービス用機器(点訳機等)を永山に設置 31日 諏訪図書館閉館 4月 1日 永山図書館開館 関戸・永山図書館の夜間開館が19時30分までに 6月 30日 団体貸出図書室用の専用車を購入 7月 多摩中学校の耐震補強工事に伴い一般書用閉架書庫を閉鎖 11月 南永山社会教育施設に一般書用閉架書庫を設置	「おはなしの生まれるところ」永山図書館開館記念講演(角野栄子氏) 「ぐりとぐらを作ろう！」絵本の主人公の手作り講座 全2回(高田千鶴子氏) 手づくり講座「製本術」2回開催(岩崎博氏)
平成10年 (1998)	3月 20日 臨時休館し、書架の整理、資料の点検を行う 4月 1日 東寺方・豊ヶ丘・聖ヶ丘の開館日が週5日から週6日に 機械可読目録(MARC)をOPL(大阪屋)からTRC-MARC Uタイプ(図書館流通センター)へ変更 閉架書庫を南永山社会教育施設に集中(図書の搬入) 多摩市図書館協議会「多摩市立中央図書館の施設整備及び図書館サービスのありかたについて」を答申	「エルマーのぼうげんに出てくる“りゅう”を作ろう」絵本の主人公の手作り講座 全2回(高田千鶴子氏) 「絵本大好き！幼児への絵本の読み聞かせ講座」全5回(波木井やよい氏) 本館開館25周年記念事業 特別展「目で見ると多摩市立図書館」 講演会「“科学あそび”っておもしろい」「インターネット時代の情報検索」「本を作るということ」 郷土資料展示会
平成11年 (1999)	3月 唐木田駅にブックポスト設置 9月 関戸公民館のヴィータ・コミュニネの移転により、やまばとホールの施設管理業務が図書館に移管	子ども図書館フェスタ(文部省委嘱「子どもの心を育てる図書館活動推進事業」) 「ぐりとぐらを作ろう！」絵本の主人公の手作り講座 全2回(高田千鶴子氏) 「製本術」全2回(岩崎博氏) 「手遊び・指遊び講座」全2回(石川道子氏) 「本を読む楽しさを！小学校低学年への読みきかせ講座」全4回(波木井やよい氏) 「利用者端末機を使いこなす！」全2回(図書館職員)
平成12年 (2000)	2月 関戸図書館の集会室改修 都立図書館インターネットによる検索予約を開始 4月 豊ヶ丘・聖ヶ丘の平日の開館時間を17時から18時に延長 図書館連絡車の運行を委託化 12月 年末年始の休館を12月28日～1月4日から12月29日～1月3日に変更	「赤ちゃんといっしょに絵本を！乳幼児向け絵本の読みきかせ講座」全5回(波木井やよい氏) 「親子で楽しむおはなし会」子ども読書年記念事業(市民ボランティア/図書館職員) 「お話の講座・入門編—自分の声で語ってみましょう」全5回(湯沢朱実氏)

年	できごと	図書館主催講座・行事
平成13年 (2001)	2月 東永山複合施設に閉架書庫を設置 10月 永山図書館にブックディテクションシステムを設置	「子どもの心と本—小学校低学年への読み聞かせ講座」全4回(蔵元和子氏) 「お話の講座—お話を聞いてみましょう」全2回(湯沢朱実氏/藤田浩子氏)
平成14年 (2002)	3月 日野市、稲城市と図書館相互利用協定を締結 4月 日野市、稲城市との図書館相互を開始 8月 多摩市立団体貸出図書室を中諏訪学校跡地施設から東永山複合施設へ移転 11月 絵本かたりかけ事業開始	「手づくり製本術—つくってみましょう自分だけの本」全2回(岩崎博氏) 第1回「本だなど新しいなかまたち」(図書館職員)※以降随時開催 「読みきかせのすすめ—小学生への読みきかせ講座」全4回(波木井やよい氏) 「絵本の主人公の手作り講座—つくってみよう！ぐりとぐら」全2回(高田千鶴子氏)
平成15年 (2003)	4月 関戸・永山図書館で祝休日開館開始 本館に行政・郷土資料コーナーを開設 6月 多摩市平和展に平和をテーマとした図書を団体貸出 11月 多摩市図書館協議会「児童サービスの今後の展開について」答申 文庫連主催本館開館30周年記念講演会(竹内愨氏)	「子育て・子育て・親育ち—わらべうたでふれ合いながら」全2回(浅井典子氏) 「とよたかずひこ氏 自作を語る—桃の節句にももんちゃん」(とよたかずひこ氏) 「リーパー・すみさんとあそぼう！—英語で楽しむおはなし会」(リーパー・すみ子氏) 「絵本の主人公の手作り講座」全3回(高田千鶴子氏)
平成16年 (2004)	3月 自動車図書館「やまばと号」の運行終了 4月 貸出冊数の制限撤廃 ブックリスト「絵本はともだち～赤ちゃんといっしょに楽しむ絵本」発行 7月 都市再生機構から多摩ニュータウン関連資料を譲渡 延滞利用者への貸出停止を開始	「本の読み聞かせ実施講座」(代田知子氏) 「絵本作家ひろかわさえこ講演会—幼い子どもによりそう絵本」(ひろかわさえこ氏) 「手袋人形の手作り講座『のはらうた』より“ありんこたくじくん”作り」(高田千鶴子氏) 「かみしばい実演講座」(右手和子氏)
平成17年 (2005)	3月 『「多摩市関連新聞記事索引」平成元年～平成16年12月』を作成(冊子及びCD-ROM) 図書館第IV期コンピュータシステム開発着手	「昔話が語る子どもの姿」(小澤俊夫氏) 「土の中の生きものの不思議」子ども読書の日記念事業(皆越ようせい氏) 「バリアフリー絵本とは」(渡辺順子氏)
平成18年 (2006)	3月 18・19日 第IV期コンピュータシステム稼動に伴うパスワード登録の受付のため、関戸・永山図書館臨時閉館 20日 図書館第IV期コンピュータシステム運用開始 インターネット(携帯電話含む)からの蔵書の検索・予約開始 4月 クラス貸出(学級への団体貸出)廃止 6月 除籍資料(児童書)を学校図書館に譲渡 8月 永山図書館の視覚障がい者サービス用機器を入替 8月 ～9月 学校図書館の蔵書を、図書館第IV期コンピュータシステムに登録 9月 たま市民文庫を開設 10月 1日 インターネットからのリクエスト(未所蔵資料)受付開始 2日 学校図書館システム稼動 27日 多摩センター駅前の「福祉ショップ」で予約本の受渡しを開始 福祉ショップ前ブックポスト設置 11月 学校図書館からの直接予約を試行開始 『すべての子どもに読書のよろこびを～多摩市子どもの読書活動推進計画～』策定	第1回「謎解き多摩ニュータウン」(多摩ニュータウン学会/多摩市立図書館共催) 「小学生向けよみきかせ講座」(山花郁子氏) 第2回「謎解き多摩ニュータウン」(多摩ニュータウン学会/多摩市立図書館共催) 「高齢者向けよみきかせ講座」(山花郁子氏) 「音訳ボランティア養成講座(初級)」(旧「朗読講習会」)全12回(恵美三紀子氏) 「乳幼児期の絵本子育て」(荒川薫氏)
平成19年 (2007)	5月 第1回子どもの読書活動推進連絡会を開催 9月 TAMAMIRAI2007多摩市民まちづくり討議会開催 10月 関戸図書館にシニアコーナーを設置(以降、各館に設置) 利用者懇談会を開催(2回) 12月 『TAMAMIRAI2007多摩市民まちづくり討議会報告書～市民が求める多摩市の図書館・図書館サービス』が刊行される	第3回「謎解き多摩ニュータウン」(多摩ニュータウン学会/多摩市立図書館共催) 「音訳者養成講座(中級)」全5回(恵美三紀子氏) 第4回「謎解き多摩ニュータウン」(多摩ニュータウン学会/多摩市立図書館共催) 「シニアを応援する講座」



年	できごと	図書館主催講座・行事
平成20年 (2008)	<p>1月 14日～3月21日 本館、移転のため休館</p> <p>3月 22日 本館、旧西落合中学校跡地に開館</p> <p>第1回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》開催</p> <p>福祉ショップ前に24時間利用できるブックポストを設置</p> <p>31日 多摩市役所第二庁舎1階に行政資料室、開室</p> <p>多摩センター駅前出張所ブックポスト終了</p> <p>4月 1日 京王線沿線七市連携による相互利用サービスを開始</p> <p>予約・リクエスト件数の制限を開始</p> <p>8月 ～21年3月 ティーンズ向けおはなしの会「10代の時間」全9回開催</p> <p>11月 本館に資格・スキルアップコーナーを新設</p>	<p>《ほんともフェスタ》における講演会</p> <p>「ニルスもピッピも、みんなの友だちースウェーデンの子どもの本を語る」(菱木晃子氏)</p> <p>「父親による読み聞かせ、私の父親(児童文学者渡辺茂男)と私という父親」(渡辺鉄太氏)</p> <p>「初心者向け読み聞かせ講座」(石川道子氏)</p> <p>他、おはなし会やアニメーション等</p> <p>第5回「謎解き多摩ニュータウン」(多摩ニュータウン学会/稲城市立図書館/多摩市立図書館共催。会場:稲城市立中央図書館)</p> <p>第1回たま市民文庫リレートーク(臼井アキ子氏)</p> <p>「絵本で子育て、孫育て《おとうさん、おかあさん、おじいさん、おばあさん向》絵本読み聞かせ講座」秋の読書週間イベント(濱口敦子氏)</p> <p>「知っておきたい裁判員制度」シニアを応援する生活講座その2</p>
平成21年 (2009)	<p>1月 ～4月 第1回市民企画展示「完璧な親なんていない」</p> <p>3月 第2回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》開催</p> <p>4月 1日 休館日と開館時間を変更</p> <p>本館で毎月第一木曜日以外の木曜日を開館する</p> <p>本館、永山図書館で開館時間を10時から9時30分に変更</p> <p>～6月 第2回市民企画展示「男のコダワリ Vol1 食」</p> <p>5月 都市再生機構から多摩ニュータウン関連資料を譲渡</p> <p>6月 ～8月 本館で平日19時までの開館時間の延長を試行</p> <p>～6月 第3回市民企画展示「子どもは未来のまちを担う、まちづくりの主役！」</p> <p>9月 ～10月 第4回市民企画展示「男のコダワリ Vol1 スタイル」</p> <p>10月 ～22年1月 第5回市民企画展示「渡辺茂男展 一心に緑の種をまく」</p>	<p>「絵本のよみきかせく初級」全3回(石川道子氏)</p> <p>第2回たま市民文庫リレートーク(椎塚光子氏)</p> <p>《ほんともフェスタ》における講演会</p> <p>「朗読と音楽のコラボレーション」(出井保子氏/楠見理枝氏/やなせけいこ氏)</p> <p>「パスワードの、ひ・み・つを探れ！」(松原秀行氏)</p> <p>「絵本かたりかけワークショップ」(大津智美氏)</p> <p>第3回たま市民文庫リレートーク(佐藤正昭氏)</p> <p>第4回たま市民文庫リレートーク(藤島爽氏)</p> <p>「乳幼児へのよみきかせ」全3回(石川道子氏)</p> <p>渡辺鉄太氏講演会</p> <p>第6回「謎解き多摩ニュータウン」(多摩ニュータウン学会/多摩市立図書館共催)</p> <p>「知っておきたい認知症」シニアを応援する生活講座その3</p>
平成22年 (2010)	<p>3月 シリーズ予約(巻号順予約)開始</p> <p>3月 第3回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》開催</p> <p>3月 31日 福祉ショップでの予約本の受け渡し終了</p> <p>6月 ～8月 本館で平日19時までの開館時間の延長を試行</p>	<p>《ほんともフェスタ》における講演会</p> <p>「のはらうた、うたおう！」(工藤直子氏)</p> <p>「絵本のよみきかせ《中級》」(石川道子氏)</p> <p>第7回「謎解き多摩ニュータウン」(多摩ニュータウン学会/多摩市立図書館共催)</p>
平成23年 (2011)	<p>3月 第4回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》開催</p> <p>国立国会図書館レファレンス協同データベースに参加</p> <p>東日本大震災に伴い12日～31日まで閉館(一部臨時開館あり)</p> <p>25日 唐木田駅ブックポスト終了 唐木田図書館附設ポスト供用開始</p> <p>『すべての子どもに読書のよろこびを～多摩市子どもの読書活動推進計画～』終了</p> <p>4月 唐木田図書館開館</p> <p>4月 多摩市立図書館の基本方針・運営方針が確定(23年度の蔵書点検中止)</p> <p>7月11日 ～9月10日 節電のための開館時間変更と輪番休館</p> <p>12月 図書館システム機器入替え(予約かご・巻数順予約開始)</p>	<p>《ほんともフェスタ》における講演会</p> <p>「声をあわせて楽しく群読！」(加藤征子氏/福井嘉子氏)</p> <p>「科学あそびってこんなにおもしろい！」(代田みち子氏)</p> <p>「乳幼児のためのわらべうた」(石川道子氏)</p> <p>「絵本のよみきかせ《初級》」(石川道子氏)</p> <p>「おはなしを語ってみよう」(湯沢朱美氏)</p>
平成24年 (2012)	<p>2月 『第二次多摩市子どもの読書活動推進計画』策定</p> <p>7月 本館工事(臨時休館)</p>	<p>第8回謎解き多摩ニュータウン」(多摩ニュータウン学会/多摩市立図書館共催)</p> <p>第9回謎解き多摩ニュータウン」(多摩ニュータウン学会/多摩市立図書館共催)</p> <p>「はじめてのよみきかせ」(図書館職員)</p> <p>「おはなし会に『わらべうた』を！」全3回(石川道子氏)</p>
平成25年 (2013)	<p>3月 第5回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》開催</p> <p>4月 本館の組織改正 管理・奉仕3を総務係、企画運営係、地域資料係、子ども読書支援係、サービス係の5係に</p>	<p>「人形を作って使っておはなし会を盛り上げよう」(高田千鶴子氏)</p>

年	できごと	図書館主催講座・行事
平成26年 (2014)	3月 第6回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》開催	「春休み子ども科学あそび カエルのことしってるケロ? ～カエルとともだちになろう～」(伊沢尚子氏) 「読み聞かせボランティア養成講座」全3回(石川道子氏)



## 5 コンピュータシステムの変遷

### (1) オンライン化以前の電算処理

開館当初は、手書きの貸出返却データを市の電算室でパンチ入力するという原始的な方法でした。その後、バーコードラベルをライトペンでこするだけで貸出返却データがカセットテープに記録されるデータレコーダーを導入。昭和 52 年には、メモレックス・システム K-3 を導入し、目録(カタカナ)をコンピュータ化しました。

### (2) 第Ⅰ期コンピュータシステム

昭和 58 年 4 月、コンピュータシステムの運用が全庁的な課題であることから、多摩市電子計算組織管理運営委員会のなかに図書館電算機導入検討専門部会が設置されました。検討の結果、図書館の蔵書管理の適正化のためには図書館単独でコンピュータシステムを導入すべきであるとの結論に至り、機器及びソフト開発が富士通に委託されました。

この第Ⅰ期コンピュータシステムは、昭和 59 年 8 月 1 日から稼動しました。

### (3) 第Ⅱ期コンピュータシステム

より効率的な図書館運営のために、第Ⅰ期システムを基礎としたうえで、次の事項を付加したシステムの導入が計画され、開発は第Ⅰ期と同じ富士通に委託され、平成 3 年 3 月 22 日から稼動しました。

- ・ 全館オンラインリアルタイム処理の導入と安定したレスポンスタイムの確保
- ・ 所在データの精度向上、検索の効率化とスピードアップ
- ・ 発注、雑誌管理、原簿管理など新規業務のシステム化

### (4) 第Ⅲ期コンピュータシステム

図書館利用者の読書要求は質・量ともに顕著な広がりを見せ、図書館業務も拡大をしてきました。

図書館コンピュータシステムでは、

- ・ 貸出、リクエストの処理件数の増加
- ・ 利用者のニーズの多様化・高度化への対応
- ・ 他の情報システムとの連携

に対応したシステムの導入が課題となり、図書館長を議長として図書館の電算担当職員をはじめ情報管理課職員を含めた選定会議が設置されました。

システムの選定にあたっては、各市における図書館システムの導入実績を基に、8 社に対してハードウェア、ソフトウェア、研修体制・支援体制、導入スケジュール、経費などの項目についての提案書と図書館がシステムに求める要件についての回答書の提出を求めるとともに、提案内容に対する補足説明・質疑応答などのヒヤリングを行いました。その結果、評価がもっとも高かった松下電器産業(株)を委託業者に決定しました。

この第Ⅲ期コンピュータシステムは、市民の高い学習意欲に応じたサービスの向上、増大し複雑化する図書館業務への対応、現行システムの資産の継承を基本方針に、平成 7 年度から開発に着手し、平成 9 年 3 月 26 日から稼動しました。

## **(5) 第Ⅳ期コンピュータシステム**

### **① プロジェクトチーム**

第Ⅲ期コンピュータシステム稼動から7年が経過した平成16年5月、新たな図書館コンピュータシステムを開発するため、次の3項目の目標を掲げ、図書館・市のコンピュータ担当(情報推進課)・指導室からなるプロジェクトチームを発足させました。

#### ア 市民サービスの向上

インターネットや携帯電話で各種蔵書情報の提供、蔵書検索・予約、利用紹介(貸出状況・予約状況の確認)等ができること。また、各館にインターネット用端末機を整備すること。

#### イ 学校図書館との連携

市立小・中学校の学校図書館に市立図書館とネットワークでつないだ端末機を導入し、各校の資料の登録、貸出・返却や予約をシステム上で管理できるとともに、図書館と学校図書館の蔵書を一元管理し、蔵書情報の共有化と資料の共有化を図ること。

#### ウ 図書館業務の効率化

処理能力を向上し、検索・予約等窓口業務をスピード化するとともに、予約本確保の連絡ができるようにメール連絡機能等を導入すること。

### **② 選定**

第Ⅳ期コンピュータシステムの開発業者の選定は、指名業者による企画提案方式とし、プレゼンテーションを経て、平成17年3月、最も評価の高かった(株)サン・データセンターに決定しました。

### **③ 稼動**

図書館システム部分は、平成18年3月20日に、また学校図書館システム部分は、平成18年10月2日に稼動しました。

### **④ データセンター**

インターネット上で365日24時間蔵書検索等の市民サービスを安定的に提供していくために、設備や監視体制が整い、かつ夜間を含めた障害の早期検知と迅速な対応が図れるデータセンターに図書館システムのサーバ機を設置し、運用しています。